

<本年度クラブ会長方針>

No.1518

広げようロータリーの想い、職場に社会に

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
 会長 大原敏正 事務局 名古屋市中区栄4-7-10 栄第8ロイヤルビル6F
 幹事 鬼頭茂成 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
 URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

ロータリーは機会の扉を開く

<2020-21年度 R.I.テーマ>

R.I.会長 ホルガー・クナーク

第1783回例会

地域社会の経済自衛/米月間
 令和2年10月22日(木)

外部卓話

於 名古屋東急ホテル
 会員54名

出席計算数

46名中36名出席

出席率 78.26%

前及前回出席率 100%

例会プログラム

★外部卓話

ロータリーソング

※新型コロナウイルス感染症
 拡大防止対策として歌は無し

ゲスト

NTT西日本ビジネスフロント株式
 会社取締役東海支店長
 小林 正和さん

米山奨学生
 馬 健林

ニコソックス

本日は小林正和様よろしくお願
 います。 大原 敏正

NTT西日本ビジネスフロント(株)
 小林様 卓話楽しみにしています。

鬼頭 茂成・草野 勝彦
 岡村 隆徳・田崎 雅三
 林 順治・杉本 忠夫
 小林さん卓話よろしくお願いま
 す。 小宮山一仁

NTT西日本ビジネスフロント(株)
 小林様 本日の卓話よろしくお願
 いします。 加藤巴千彦



会長挨拶
 本日はNTT西日本ビジネスフ
 ロント、東海支店長の小林正和様を

大原 敏正

春日井和良
 岡田さんありがとうございます。
 またお願いします。 大上 晃延
 浅野さん、夕方のニュース出演
 素敵でした。 木村 吉伸

加藤さん先週はありがとうございました。
 楽しい大須の夜を過ごせ
 ました。 またお願いします。

吉田 憲一
 りがとございました。吉田 憲一

吉田隆彦さん昨日は大変お世話に
 なりました。草野さん、堀江さんあ
 りがとございました。吉田 憲一

近藤宏一郎さんお世話になります。
 近藤宏一郎

尾上 昇
 今日もコロナミのプールで1,000
 m泳いできました。 吉田 隆彦

吉田隆彦さん昨日はありがとうございました。
 堀江 英弥

お迎えして、これからの時代を見越
 した卓話をしていただきます。大
 変に楽しみにしています。 小林様
 よろしくお願います。

先週は地区補助金を使った。バラ
 オとの交流事業について、急遽お
 話をしました。バラオの日本大使
 館のホームページにも、今回の大
 須ロータリークラブの活動が紹介
 されているようですので、お時間
 がある方は見てみてください。

本日は前々回の続きで、最も新
 しく最先端の技術だった入れ歯の
 話をします。

歯が無くなって困ることは食事
 での不自由はすぐに思い当たりま
 すが、食べ物の工夫でなんとかな
 りました。パンをスープに浸した
 り、穀物や豆を柔らかく煮込んだ
 りする、そういった食事に変わ
 我慢していたようです。その国の
 古くからの伝統的な食事が国民の
 歯の状況とも関連しているのでは
 と私は昔から考えています。

歯が何本か残っている場合はそ
 れを駆使して食べていましたが、
 中途半端に歯が残っていたりする
 と余計に食べにくいものですから
 その場合は全て抜いてしまいいま
 す。歯がありませんので歯茎で食
 べます。一頓アブリでよく見まし
 たクシャおじさんとなります。抜
 歯の要望が多いためか、歯を抜く
 技術や道具はヨーロッパでは古
 から多く研究されてきました。

前歯が無いままですと見苦しい
 ので、残った歯にヒモや針金で、
 脱落した歯や歯に似せた貝殻や象
 牙をくっ付けましたが、勿論全
 く噛めたものではありませんでし
 た。むしろ喋るときにも逆に邪魔
 ものでした。その結果ブリッジは
 普及しませんでした。

そのため前歯が無くなった時は
 そのままになり、自然と「口元」を
 隠すようになりました。レースの
 扇子で隠したり、手のひらで口元
 を押さえたりする仕草が出るよう
 になりました。よく映画や漫画で、
 上流階級の人々がしている仕草な
 のですね。実はお上品な仕草では
 なく、前歯がなくなっているのを
 知られないようにする為の仕草だ
 ったのです。

さてそのような状況の中で、そ
 れまでの歯科治療とは言ってもほ
 とんどが抜歯ばかりでしたが、
 体系的に研究した歯科医師がいま
 した。フランス人のピエール・フ
 オシャルでした。彼は「近代歯
 科医学の父」と呼ばれています。
 彼はその著書「歯科概論」の中で、
 金属線を用いて繋げたブリッジな

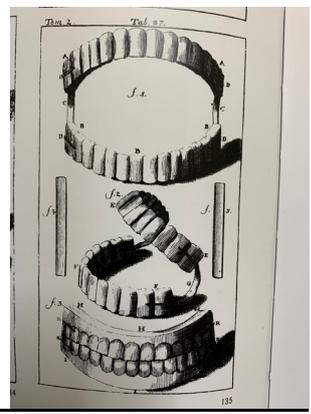


ピエール・フォシャル (1678-1761)

金属線を用いて繋げたブリッジな

金属線を用いて繋げたブリッジな

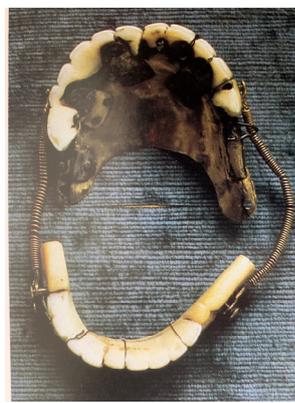
金属線を用いて繋げたブリッジな



どを紹介していましたが、画期的な発想で、これ迄出来なかった総入れ歯を紹介しました。総入れ歯の難しさは、何の支えも無い歯茎に合わせ、上下の入れ歯同士を押しつけて、咀嚼や会話などの機能、力を発揮させることです。現在のそのような精密な、歯茎の型取り技術が無い時代では、必ず落っこちてしまいます。現在でもよく漫画などでは、外れて口から飛び出す入れ歯が出てきますが、彼が開発した方法は、上と下の入れ歯を奥で板バネでつなぎ、歯茎に押し付けるようにしたものでした。そのためバネの強さにもよりますが、絶えず強く噛み締めていないと入れ歯がお口から飛び出します。漫画によくある飛び出す入れ歯の原因はこのバネにあったようです。そのような入れ歯をお口に入れては限り、噛み締めていなければならず、そのため入れ歯の装着は大変に疲れるものでした。結局機能回復ではなく、見てくれの改善が目的で、話すこともままならなかったようです。もちろん入れ歯

の土台は、加工のしやすい金の板を用い、象牙で作った歯をネジで止めて使っていましたので、大変に重く、高価なものでした。

アメリカ初代大統領のジョージ・ワシントンが、フォシャルの弟子にこの入れ歯を作ってもらったことで板バネからスプリングに改良されています。家一軒相当の値段だったそうです。これが実際にワシントンが使っていた入れ



歯です。ワシントンは我慢強く使おうとしましたが、大変に不自由で、国内の遊説先から奥さんや、主治医宛に入れ歯の不調を訴える手紙が随分と残されています。私でも家一軒分の費用をもちつてもこのバネ式入れ歯を満足に使えるように調整はできません。この入れ歯を入れた状態での演説は、話すほうも大変だったでしょうが、聴く聴衆も大変だったと思います。アメリカのイードル紙幣のデザインとなったワシントンの肖像画の制作では、実は彼は義歯を装着していません。しかし口元が寂しくなるので、口の中に綿を詰めて描



かれました。その言葉は何かしら口元が不自然ですね。18世紀最高の知識、世界最高峰の技術を駆使して、作られた総入れ歯は、実はとてもない代物だったことが、お分かりいただけだと思います。

では一方、日本ではどうだったのか、この続きはまたの機会にお話しします。
「今日一日、笑顔で過ごしました。うーありがとうございます。」

卓話

「ニューノーマルな時代に備えて」
NFT西日本
ビジネスフロント株式会社
取締役東海支店長
小林 正和さん



平素は、弊社事業に格別のご高配を賜り誠に有難うございます。まず、弊社について紹介させていただきます。弊社は、東海4県において新たに事業拡大をお考えの企業様に対し、ICTサービスを活用して通信環境や業務課題改善のご提案などのお手伝いを行っている会社となります。

さて、「コロナ禍の中で事業継続や社員的安全確保等の観点で、皆様も大変なご苦労をされているのではないかと思います。本日は、「ニューノーマルな時代に備えて」というテーマで、その対策の一部をご紹介します。

労働者不足や生産性の向上といった経営課題は、私達が直面している「コロナ禍」のなかでさらに拍車がかかった深刻な課題となっていくと想定されます。今後は、限られたリソースの中で企業の働き方の見直しや業務効率化を如何に進めていくかが事業運営にあたっては大きなポイントになってくると思います。

コロナを超えて

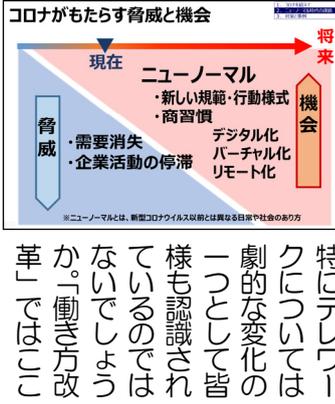
長期化する「コロナ禍」において直面する企業・消費者の考え方にも変化が出て来ています。「コロナ禍」初期の段階では、働き方改革や外出の自粛等の制約された中での対応をしましたが、今後は、人と接触しなくても快適なサービスを提供するという新しい規範段階

への取り組みや考え方も遷移してくと想定されます。

また、少子高齢化による労働者不足に対する業務効率の対応を講じる必要があります。日本の総人口はピークだった2013年の1億2,000万人から2050年には3,000万人が減少し9,000万人になってしまつと予想されています。既に身近なコンビニでは外国人労働者の方に手伝って頂かないと回らないようになっていっています。労働者不足や「コロナ対策は」避けては通れない問題であり、このような状況のなかで如何に事業運営を円滑に進めていくべきかが重要な課題になります。

ニューノーマル時代の課題

「ニューノーマル」とは、これまでの「今までの常識が大きく変わる」といった局面で活用されてきた用語でした。しかしながら今、人類の歴史的災厄の中で「コロナ以前とは異なる日常や社会の在り方」という意味合いで使われるようになってきており、このような中で



までテレワークは進みませんでしたが、「コロナ」によりそれは何十倍ものスピードで定着していきました。こうしたテレワークとPC作業により「個業化」(反意語は協業化)が進み、従業員の業務内容がますます分岐するようになっていく把握できない、といった事象とともに、業務の効率化を図ろうとしても何をどう手を付けてよいかわからないといった課題へと発展してしまっていることがあります。また、そこで働く社員にとっても何が正しいのか、どう改善すれば良いのかわからない。といった壁にぶつかってしまっているのではないでしょうか。

対策と事例

NTT西日本ビジネスフロントでは、「こうした進捗個業化の中でPC業務のログから従業員の働き方、業務内容を視える化し、それぞれの会社にあった働き方改革の実現をサポートするサービス「おまかせA-働き方みえる」を提供しております。

NTT西日本グループが独自開発したA-膨大な業務データから「勤怠管理(残業、休暇取得)」「勤務時間別の具体的な業務内容」「USB等からの持ち出し情報などのセキュリティ管理」「各種APPやOSのバージョンや有効期限等の「IT資産管理」などを解析し、わかりやすいレポート資料として報

告します。これによりお客様の業務改善の打ち手を示す一助としてご利用できますので、DX化推進や働き方改革、ガバナンス強化にも役立つものと考えております。

この「おまかせA-働き方みえる」という商品は、お客様の事務所やサーバ等を構築することなく、該当のPC端末1台ずつに直接専用ソフトをインストールすることで結果がレポートされるサービスであり、利用料の支払いはあるものの新たな設備投資は必要としないサービスです。

新たな仕事の仕方(クラウドサービスや印鑑の廃止、新たな働き方(リモート営業在宅勤務)、新たな顧客とのつながり(バーチャル展示会、ネット店舗)など、「デジタル」「バーチャル」「リモート」の実現・推進によって、企業も大きく変化することにも、今後また多くのビジネスチャンスがあると考えられます。自社に適切な提案に努め取り組んで参りますので、何かございましたら、弊社に是非お声掛けいただければと思います。

地区補助金事業活動報告

「Pacific Friendship Bridge」

第16回青少年太平洋交流

国際奉仕委員長 渡辺 観永

10月14日(水)在パラオ日本国大使館にて執り行われました。当

クラブ地区補助金事業「Pacific Friendship Bridge」第16回青少年太平洋交流「贈呈式の様子が現地(パラオ)新聞合紙に掲載されましたので報告申し上げます。

Judo equipment handover ceremony
On October 14th, Ambassador KARASAWA Akira attended a Handover Ceremony for the donation of judo equipment to Palau Judo Federation (PJF). A Judo timer and scoreboard were donated by the Rotary Club of Nagoya Osu. PJF President, Mr. Ismael Agun, judokas and their parents were present to witness the handover ceremony along with Mr. OHARA Toshimasa, Chairman of the Rotary Club Nagoya Osu and other related organizations in Japan who joined the ceremony online. Ambassador Karasawa thanked the Rotary Club of Nagoya Osu and expressed his appreciation for the donations which came in just in time before the Judo tournament planned to be held in early 2021.

▲ TIA Belau 20.10.19

Rotary Club to the Palau Judo Federation
On October 14, 2020, Ambassador Karasawa Akira presented the donation of scoreboard from Nagoya Osu Rotary Club to the Palau Judo Federation on Wednesday. The event was held at the Palau Judo Federation. Photos by Richard W. Brown.

Embassy of Japan in Palau (在パラオ日本国大使館) Facebook post regarding the handover ceremony.

在パラオ日本国大使館HP (facebook) 20.10.15

Island Times 20.10.16

その他・お知らせ

国際ロータリー・ニュース

「世界ポリオデー」大きな達成に焦点

2020年10月21日

ロータリーによる2020年世界ポリオデー(10月24日)の特別オンラインプログラムは、アフリカ地域のポリオフリー認定というポリオ根絶活動における歴史的達成事項にスポットライトを当てます。

パラリンピック選手で、今年のプログラムの共同ホストとなるアデ・アペビタン氏にとって、アフリカ地域でのポリオ根絶は特別な意味をもちます。幼少期にポリオにかかったアペビタン氏は、「私はナイジェリア生まれなので、この達成を心から嬉しく感じています。小さいときからこの日を待ち望んでいたと述べました。

10年前、全世界における野生型ポリオウイルスによる発症のうち4分の3はアフリカで起きていました。現在、10億人以上が暮らすアフリカはポリオフリーとなっています。しかしアペビタン氏は「根絶活動はまだ終わっていない」と警鐘を発し、全世界でのポリオ根絶という大きな目標の達成に精力的に取り組むことを訴えています。

同じく共同ホストを担うギータ・マネク氏(ロータリー財団管理委員)は、世界ポリオデーが



世界ポリオデー：大きな達成に焦点

ロータリーの意欲を高める特別な機会だと述べ、ポリオに終止符を打つために、ひたむきに根絶活動に取り組むロータリアンが世界中にいることを指摘しました。

共同の取り組み

ナイジェリアのポリオプラス委員長であるロータリアン、ハンジ・フンシヨ氏(Lekki Phase 1ロータリークラブ会員)は、この快挙がアフリカの会員とリーダー、そして世界中の支援者によって成されたものであることを述べました。

先日、『TIME』誌の2020年「世界で最も影響力がある100人」に選ばれたフンシヨ氏は、認識向上と資金調達のために無数のロータリアンがイベントを催し、政府への働きかけを行っていることを指摘します。ポリオ根絶はま

ロータリーのナイジェリア・ポリオプラス委員長であるツンジ・フンシヨ氏が、『TIME』誌の「世界で最も影響力のある100人」に選ばれ、世界で活躍する先駆者、アーティスト、リーダー、著名人、巨匠たちとともにリスト入りしました。



さに共同の取り組みです。この達成は私たち全員のもです。」

ロータリーとその会員は、アフリカ地域でのポリオ根絶活動におよそ8億9,000万ドルの寄付を行ってききました。これらの資金はポリオプラス補助金となり、サーベイランス、輸送、認識向上キャンペーン、NID（全国予防接種活動）に活用されます。

今年の世界ポリオデーの特別オンラインプログラムは、フェイスブックにて複数言語で配信され、日本では10月24日午前8時から配信となる予定です。ビル&メリンダ・ゲイツ財団がスポンサーとなるこのプログラムでは、『TIME』誌の編集者であるシエフリ・クルーガー氏、TVニュースのホスト役でロータリアンのマーク・ライト氏（米国、Seattle）

ロータリークラブ会員の、グラミー賞受賞歌手のアンジエリック・キシヨール氏が出演します。

2020年の課題

2020年は、100万人以上の命を奪い、世界経済を震撼させている「コロナウイルスへの言及なし」に語る事ができません。

グローバルアップデートでは、世界保健の専門家が、ロータリーと世界ポリオ根絶推進計画（GPEI）の主要パートナーが今日までに築いてきたポリオ根絶活動のインフラが、コロナウイルスの世界的流行に対する対応においてどのように役立てられているかについて話します。

WHO事務局長付シニアアドバイザーであるブルース・アイルワード氏は、次のように述べます。「ポリオ根絶活動を通じて構築したインフラは、地域社会の関与と連携の方法、地域社会が実際に保健介入を行うための指導方法、疾病サーベイランスの方法など、ほかの多くの疾病に取り組み上で非常に重要な役割を果たしてきました。」

グローバルアップデートのパネリストには、クリストファー・エリアス氏（ビル&メリンダ・ゲイツ財団グローバル開発部門長）、ヘンリエッタ H. フォア氏（UNICEF事務局長）、レベッカ・マティン氏（米国疾病対策センター、

グローバルヘルスセンターディレクター）も含まれます。

エリアス氏は、世界にはほかにも伝染性の疾病が緊急的に流行しているものの、ロータリアンが常に支援してくれると話します。「ロータリアンは、ポリオキャンペーンで村の子どもたちに行った支援から学んだことを生かして、黄熱病やはしかのワクチンを子どもたちへ届けています。」

グローバルアップデートでは、ポリオ根絶のインフラに基づくパンデミックへの対応戦略についても紹介しています。エチオピアのポリオサーベイランスチームがコロナウイルスの症例を報告しているほか、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンでは、通常ポリオ対策に使用されている緊急活動センターがコロナウイルス対応に活用されています。

また、ナイジェリア・ボルノ州での予防接種活動で奮闘しているボランティアの保健ワーカーや、子どもたちをポリオから守るためにアフガニスタンで地域動員に尽力する人たちの様子を紹介するビデオも配信されます。

クルーガー氏は、ロータリー会員3名を含む「ポリオのバイオニア」たちと幼少期の経験について話します。これらのバイオニアは1950年代にジョナス・ソーク博士が開発したポリオワクチンの

大規模試験に参加した、100万人以上の子どもたちの中に含まれます。

今後のポリオとの闘い

ロータリーにおける目下の課題は、現在もポリオの発症が続いている2カ国（アフガニスタンとパキスタン）で、野生型ポリオウイルスを根絶することです。また、アフリカでは、ウイルスの再感染を防ぐために、定期予防接種を強化する必要があります。

ポリオを根絶するには、ポリオの常在国やハイリスク国で、毎年複数回の質の高い予防接種キャンペーンを実施しなければなりません。コロナウイルスの世界的流行の間は、医療従事者をコロナウイルスから守りつつ、ポリオに対する人びとの免疫力維持と、ポリオ感染の予防に努める必要があります。

ロータリーは、1985年にポリオプラス・プログラムを開始して以来、21億ドル以上をポリオ根絶活動に投じてきました。現在、

5つの理由で貧困を削減する

- 1 人びとの生活を改善
貧困削減の目標は、16億人の人びとが貧困から脱出すること、貧困を減らすことです。
- 2 未来への投資
貧困削減の目標は、16億人の人びとが貧困から脱出すること、貧困を減らすことです。
- 3 子どもを健康に育てる
貧困削減の目標は、16億人の人びとが貧困から脱出すること、貧困を減らすことです。
- 4 資金の節約
貧困削減の目標は、16億人の人びとが貧困から脱出すること、貧困を減らすことです。
- 5 歴史をつくる
貧困削減の目標は、16億人の人びとが貧困から脱出すること、貧困を減らすことです。

ビル&メリンダ・ゲイツ財団とのパートナーシップ（ロータリーからの寄付に対し、ゲイツ財団が2倍額を上乗せ）により、毎年1億5,000万ドルが、ポリオ根絶という子どもたちの約束を果たすために活用されます。

執筆: Ryan Hyland
写真提供: Awurra Adwoa Kye
/Rotary International
(国際ロータリーIAYG)

11月5日(木) 例会の案内
ガバナー公式訪問(単独)
ガバナー 岡部 啓さん
地区幹事 伊藤 満筑さん
(名古屋北RC)

*会長幹事懇談会は定例の予定
通り10月7日(月)名古屋観光ホテルにて行われました。

11月12日(木) 例会の案内
ロータリー財団電話
「ロータリー財団プログラムについて」財団は、ロータリー会員の財産です。」
地区ポリオプラス/職業研修チーム委員長 福田 哲三さん
(名古屋和合RC)

公共イメーシング向上委員会
小澤 幸男・横川 誠人
住田 正夫・山口 正孝
*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。